

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	0175400407		
法人名	社会福祉法人 遠軽町社会福祉協議会		
事業所名	遠軽町社会福祉協議会 ぐるーぷほーむ 春來		
所在地	紋別郡遠軽町向遠軽 2 6 3 番地 (電 話) 0158-49-3110		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地		
訪問調査日	平成20年5月26日	評価確定日	平成20年7月8日

【情報提供票より】 (平成20年4月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <u>平成</u> 17年 9月 30日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	14人 常勤3人, 非常勤11人, 常勤換算5.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円~60,000円	その他の経費(月額)	10,000円~15,000円	
敷 金	有 (円) <u>無</u>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		900円	

(4) 利用者の概要 (5月 26日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1人	要介護2	1人		
要介護3	5人	要介護4	1人		
要介護5	1人	要支援2	0		
年齢	平均 86歳	最低	72歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北海道厚生連遠軽厚生病院、アサヒ歯科クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、遠軽町郊外の緑豊かな畑作地域に位置し、同法人が先に開設した民家を改造したデイサービスの隣に建っている。職員の熱い思いから、「馴染みの中で安心して暮らしていただける場所があったらいい」、その願いを叶え、事業所の要所に高齢者が安心できる生活の場を配慮しており、環境整備を心がけている。設立当時に作り上げた「このまま、そのまま、ありのまま」の基本理念・「共に生活する、つながりを大切に作る、幸せと思える暮らしが出来る」のケア理念を基に、全職員が一丸となってここで暮らし続ける支援を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題について「権利義務の明示」は説明文書や契約書に明示していない。「注意の必要な物品の保管・管理」についても、現状は問題ないとのことであるが、危機管理やリスクマネジメントの観点から、保管場所、管理方法の明確な取り決め、双方早急に検討するよう期待する。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は自己評価・外部評価の意義や目的を理解しているが、今回は選任された代表者だけで行い、結果や内容についての検討は行っていない。サービス内容についての気付きや疑問、危機管理や予測、今後の改善への取り組みに利用するなど、具体案の検討を実践していく事を期待する。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族代表・自治会長・民生委員・在介職員、保健師等を構成員とし、先月まで2回の運営推進会議を開催している。会議では事業所の運営状況や行事等について報告し、活発な意見交換を行い、サービスの質向上に活かしている。運営推進会議開催での貴重な意見などを活かすため、2ヶ月毎の開催を定例化することが望ましく、今回の自己評価や外部評価の結果も議題に含め、サービス向上に活かすよう期待する。
	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 2ヶ月ごとに事業所便り「春來通信」を送付し、利用者の日常の様子や事業所の運営状況を報告している。また、金銭出納に関しても毎月家族に報告し、内容を明確にしている。職員は日頃から家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望等を伝えられるような雰囲気づくりに努めている。家族から意見等を受けた場合は、職員間で話し合い事業所の運営に反映している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 全職員が地域に根ざす大切さを認識している。地域性や立地から行き来の困難さもあるが、近隣の住民は独居の方も多く事業所に明かりがあることで、24時間の安心に繋がっている。総合相談窓口として来訪される方も多く、地域とはずでに交流を行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当時に作り上げた「このまま、そのまま、ありのまま」の基本理念・「共に生活する、つながりを大切に、幸せと思える暮らし」のケア理念を基に、ここで暮らし続ける支援をしている。事業所独自の理念を職員が一緒に作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の要所に理念を掲示し、職員は常に理念を念頭におきながら日々のケアサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	全職員が地域に根ざす大切さを認識している。地域性や立地から行き来の困難さもあるが、近隣の住民は独居も多く事業所に明かりがあることで、24時間の安心に繋がっている。また、相談窓口として来訪される方も多く、地域とはすでに交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価・外部評価の意義や目的を理解しているが、今回の評価は選任された代表者だけで行い、結果や内容についての検討を行っていない。しかし、前回評価での課題については職員間で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	○	自己評価に関しては、全職員で取り組むことが望ましい。サービス内容についての気付きや疑問、危機管理や予測、今後の改善への取り組みに利用するなど、具体案の検討を実践していく事を期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・自治会長・民生委員・在介職員、保健師等を構成員とし、今まで2回の運営推進会議を開催している。会議では事業所の運営状況や行事等について報告し、活発な意見交換を行い、サービスの質向上に活かしている。	○	運営推進会議開催での貴重な意見などを活かすため、2ヶ月毎の開催を定例化することが望ましい。また、今回の自己評価や外部評価の結果も議題に含め、サービス向上に活かすよう期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議が定期的で開催されており、毎回参加している。その場を通じて情報交換を行い、本体である社協が役場に併設している事もあり、行政と事業所の運営等についての相談をするなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月ごと事業所便り「春来通信」を送付し、利用者の日常の様子や事業所の運営状況等について報告している。また、金銭出納に関しても毎月家族に報告し、内容を明確にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日頃から家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望等を伝えられるような雰囲気づくりに努めている。家族から意見等を受けた場合は職員間で話し合い、事業所の運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以降大きな職員の異動はなく、混乱につながる状況にはなっていない。職員の異動等があった場合は、時間をかけての関係作りに努め、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は人材育成の重要性を認識しており、職員の知識や経験に応じた研修に参加する機会を設け、職員は積極的に参加している。研修受講後は報告会を開き、情報の伝達とスキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近郊地域のグループホーム研修会に参加して情報交換を行ったり、研修会に参加して報告会を行ったり、他事業所の見学や職員交流によりネットワークづくりを実践している。このような活動を通してサービスの質の向上に繋がるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	これまでの入れ替わりが二人だけであり、長期の利用となっている方が多い。開設当時は、同法人の他サービスの利用者であったり、地域の交流の中で親しんだ結果の利用開始となっていることから、家族も本人も安心して利用している。体験利用や宿泊を通して事業所やサービスへの理解を求める支援体制になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴や生活習慣を十分に理解し、色々な知識や調理方法などを教えてもらうなど、支え合う関係を築いている。また、職員も一緒に入浴するなどの関係作りも実践している。隣接のデイサービスとの交流やコーラスの会に参加し、利用者と一緒に学んだり支えたりする関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所独自のアセスメント書式により、利用者の生活歴や生活習慣、身体状況をまとめ、利用者や家族の希望や意向の聞き取りも行っている。日常生活状況も大切に反映し、本人本位となるような支援内容把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づいた具体的な目標を掲げ、職員間で話し合いながら介護計画を作成している。しかし、介護計画をもとに日常の記録が連動するような記載内容にはなっていない。	○	利用者の生活目標に応じた対応が実践されているかについての記録は、評価したり検討したりする場面で重要な要素となるので、記録についてはケアプランに基づいた記載が出来るように実践することを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、介護計画の見直しを行っている。利用者の状態変化に応じてそのつど利用者本人・家族と話し合い、医療機関とも相談しながら現状に即した介護計画を作成している。作成後は家族に説明し、同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望や家族の要望に応じ、柔軟なサービス提供を支援している。自社車両にて受診・買い物・一時帰宅など、希望に応じて外出の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医への受診支援を行い、受診後の報告も行っている。健康状態について利用者や家族がいつでも相談できるなど、適切な医療が受けられるよう安心を確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今後予測される重度化に対してや、医療連携加算体制を含めて、現在検討中である。運営推進会議において検討課題として意見を求め、今後に反映する予定である。	○	今後は、重度化に対するケアの方針、提示できる指針や家族への十分な説明、職員間の情報の共有が適切に行えるよう今後の対応に期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りや自尊心を損ねることのないよう、声かけや対応を心がけている。また、日常の記録や個人ファイル、個人情報の管理についてもプライバシー保護のための対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められたタイムスケジュールではなく、利用者の状況や生活習慣を踏まえ、一人ひとりの生活リズムに合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と同じ食卓につき、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。また、一人ひとりの力量に応じて調理や後片付けなどを職員と一緒にしている。また、外食を楽しむ機会も設け、食事が楽しみなものになるような工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じ自由な時間帯で、週2～3回の入浴支援を行っている。また、職員も一緒に入浴するなど関係作りに努めている。就寝前の入浴を行い、シャワー浴や清拭など利用者の状態に応じた支援も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴を把握しており、一人ひとりの好きな事や得意な事を発揮できるように、役割や楽しみごとの支援を行っている。月に1度、事業所でコーラスの会を開催し、デイサービスや小規模施設の利用者が一緒に集い楽しみのひとつとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩やスーパーへの買い物、町内主催のお祭りや観光など、利用者の希望に応じた外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の理由から夜間は施錠しているが、全職員が鍵をかけることの弊害を十分理解しており、日中は職員の見守りにより、鍵をかけず利用者が自由に外出できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員はミーティングや会議を通して災害時の避難や経路・役割について話し合いを行っているが、実践的な訓練は行っていない。	○	職員のための訓練ではなく、利用者と共に地域住民の協力体制を整え、消防署の協力で早期に避難訓練を実施する事を期待する。また、災害を想定した非常用品や備品の準備、避難場所の通知等を整備する事も期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事委員会で検討されたメニューをもとに、毎日利用者と共に食材の購入に出かけ調理している。職員は利用者の食事・水分摂取量を記録し、情報を共有しながら、一人ひとりの状況に応じた支援を行っている。	○	定期的に食事内容について栄養士の専門的アドバイスを得ることが望まれる。
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはソファ・椅子を各所に設置し、利用者がひとりでも寛げるようなスペースを確保している。また、リビングは広く日当たりも良く開放感があり、光・音・湿度も適宜調整しており、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具・仏壇・装飾品等が持ち込まれ、本人が安心して暮らせるような工夫をしている。家族や孫の写真が飾られ、以前の生活と変わる事での精神的負担を軽減できるよう配慮している。		

※  は、重点項目。